



時事評論家 増田俊男

## 負ける戦争をする欧米陣営(西)と 勝つ戦争しか出来ない中ロ陣営(東)

戦争には軍事力と経済力の戦いがある。

さらに今は流行らないが、そのうち流行る文化力の競争がある。

現在は軍事と経済の時代だからこれから世界は誰に支配されるかは西と東の戦争によって決まる。

21世紀は領土侵略、経済インフラ破壊、国体崩壊など目に見えるものを破壊する物理戦争の時代である。

したがって最高の物理的破壊力を持つ核兵器を使う核戦争で西と東のどちらが勝つかで世界を支配する陣営が決まる。

西と東に核戦力の差はあるが、戦力の前に勝敗を決める重要な要因がある。

それは東西陣営の体質とも言うべき「存在基盤」である。

西は民主主義、東は全体主義を基盤としている。

民主主義は「国民第一、国体第二」であり全体主義では「国体第一、国民第二」である。

東西両陣営の究極的戦争は「核戦争」であり、両陣営とも敵に核先制攻撃をすれば、必ず核報復攻撃を受け、双方共多くの国民が犠牲になる。

民主主義の西陣営は、国民犠牲を前提とした核先制攻撃は出来ない。

一方国民の犠牲は二の次の東陣営は先制攻撃を厭わない。

したがって核戦争を想定した場合、東陣営の勝利は確定している。

では経済戦争ではどうだろうか。

経済は資本が基盤だから両陣営の通貨戦争に勝ったほうが勝者である。

西陣営の基軸通貨はドルである。

東陣営はドル一極通貨体制ではなく、多極化体制、すなわち当事国同士の通貨で取引をする欧米と異なる制度を始動させている。

人民元を除く東陣営の通貨はIMFで国際準備通貨として認められていないので西陣営の外貨準備に存在していない。

人民元は2016年から準備通貨になったが、西陣営国はほとんど保有していないから人民元もルーブルも市場で売ることが出来ない。(先物市場での売り買いはあるが、一定期間売ったものは買い戻され、買ったものは売られるゼロサムなので考える必要はない)

中国は300兆円相当の米国債を持ち、ロシアは50兆円相当の米国債を持つ。

ドルを破綻させるには中国とロシアが米国債を市場で叩き売れば即刻ドルもユーロも破綻する。

アメリカも欧州も市場を閉鎖するだろうが、その瞬間中国とロシアから核弾頭ICBMがワシントンDCに向かう。

西陣営はもとより東陣営に勝てない存在である。

こんな子供でも分かる真実をバイデンは知っているが、プーチンも習近平も出来ないと信じている、いや信じ込まされている。

そうでなくては西陣営は東陣営に冷戦など挑まない。

ワシントンDCへ核弾頭付きICBMが着弾するまで延々と時間がかかるように誘導され、その間西陣営と東陣営の兵器産業はこの世の春を謳歌することになる。

まったくご苦労様と言いたい。